

寄り添い、ともに生きること ～協働～
がん患者ピアサポートふくい 伊藤 重一

2011年8月 福井県済生会病院に“メディカルカフェ”が開設しました。その特色は、医師をはじめ、音楽療法士など多職種のスタッフが参加する全国初の試みの“がんサロン”です。

その場に居合わせた私が、「肺がんの手術をした人と話したい」という相談者と対応がありました。その共感の後、2013年10月、そんな患者仲間の知恵を共有し各個人の生活や治療に役立てる趣旨で会が設立しました。

一方、活動の中で見えてきたのは、患者・家族の悩み・不安には「共通点がある」ということです。県下にもがん患者会が誕生していますが、互いに連携することの必要性を強く感じています。

そこで、がん患者ピアサポーターの養成を通して、県下のがん患者団体の連携や活動の促進と、地域で支える仕組みづくりが重要と考えます。

ようやく県下の仲間とのネットワークづくりが進み始めました。活動におけるキーワードは「協働」なのです。

時代小説からすこし拝借すると、
『昔 通った飲み屋で、世間話だけでなく新兵衛はおみねに商いの苦労も話した。面白くない時は家の中のグチ話まで聞かせた。おみねはそういう話を親身になって聞くので話したあとは気分がさっぱりし酒もうまかった』

(藤澤周平 著「海鳴り」より)

そのような活動の場でありたく考えます。



市民公開講座「患者の立場から」 福井済生会病院にて



RFL会の紹介



ピアサポーター養成研修 (ロールプレイ)



♪ メディカル・カフェ



樋野先生の講演「がん哲学外来の役割～人生の眼を開く～」

“さりげなく、居心地のいい” カフェ
東久留米メディカルカフェ 小林 真弓

2010年6月、私は夫と二人で樋野先生の面談を受けました。面談が終わると、交流会に誘われ、私ひとり参加しました。交流会は、スタッフの皆さん、以前に面談を受けられた方々、樋野先生も加わりテーブルを囲んでお茶を飲みながら和やかにお話しが弾んでいきました。不安な気持ちの私をなごませてくれ、私の中で、がんの優先順位が少しずつ下がっていったのでした。居心地のいい時間を過ごした私は、翌月も、また翌月も参加するようになりました。

その年の11月、東久留米がん哲学外来は2周年を迎え、「1日メディカルカフェ in 東久留米」が開催されました。私は、いつの間にかスタッフとして参加していたのでした。カフェは、今も、私が初めて参加した交流会と変わりなく、月に一度、面談と並行してお茶と美味しいお菓子を頂きながらおこなわれます。語りた方は語り、お話したくない方は聴くだけ。毎月いらっしゃる方もいれば初めての方もいらっしゃいます。

初めていらして、緊張している方も皆さんのお話しを聴いてお茶を飲んでいるうちに、段々と表情が和んできて帰りには周りの方とおしゃべりされ、カフェが終わってもあちらこちらで立ち話の輪ができます。毎回、その様子をみていると、カフェっていいなあ～と感じます。もちろん、厳しいこと、哀しい事もあります。でも、皆さんがいてくれるから大丈夫。嬉しい事もたくさんあります、カフェの参加者がカフェを立ち上げたりスタッフになったり、カフェの広がりを感じます。

東久留米がん哲学外来は、2008年から始まり9年目を迎えました。続けていく事の大切さを感じると同時に、継続していく事の大変さも感じています。カフェでは、スタートした時から常に「さりげなく、何気なく、あたたかく、いごちのいいカフェ」を心がけています。テーブルに季節のお花と美味しいお菓子とお茶を用意して皆さんをお迎えしています。どうぞ、お茶を飲みにいらして下さい。お待ちしております。

お知らせ	カフェ予定	3月 19日(日)	
		4月 9日(日)	
5月 7日(日)			
(13:00～15:00)			

会場：東京都東久留米市新川町 1-2-12 松川プレイス
(西武池袋線「東久留米駅」東口より徒歩3分)
◆ 問合せ (面談予約) : 04-2923-8221 (小林)

がん哲学外来研修センター (佐久市前山 321-3)
mail : kenkokobo@hb.tp1.jp
(編集発行責任者 : 星野 昭江)